

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: 福島ユニットセンターの活動

和文タイトル: 福島ユニットセンターの活動

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: チャイルドヘルス

年: 2014 月: 3 巻: 19 頁: 48-49

筆頭著者名: 橋本 浩一

所属UC名: 福島UC

目的: 福島ユニットセンターにおける活動について報告する。

方法: 福島県でのエコチル調査は、平成23年1月末より対象地域を福島市、南相馬市、双葉郡として開始された。開始後まもなく、東日本大震災と東京電力第一原子力発電所事故が発生した。震災直後より対象地域外の妊婦、医療関係者から全県下での実施を望む声もあり、平成24年10月から対象地域は全県下59市町村に拡大された。県内52か所の産婦人科協力医療機関で、本調査の参加登録をし、また半年ごとの質問票調査を実施した。

結果: 福島ユニットセンターでは、妊婦のべ13,134人、父親のべ8,695人が参加登録し、児12,843人が出生した。(いずれも当時の暫定値)リクルート期間中の妊婦の参加者同意率は78.6%、カバー率は48.5%であった。出生後6か月ごとの質問票の返却率は、平成27年6月末時点で88~96%を維持している。

考察:(研究の限界を含める)

リクルート開始時から参加者の思いを大切に、また、参加者がエコチル調査の意義を再認識し「参加して良かった」「これからも頑張りたい」と考えていただけるよう、県内各地域で、子どもの成長発達段階に合わせた内容の小規模イベントを実施した。その活動が現参加者数や質問票返却率の維持につながっていると考えられた。イベント時のアンケートでは、参加者の95%以上が、イベントについて満足したと回答した。今後もこれらを継続する予定である。

結論: 今後も小規模イベントなどを実施し、福島で産み育てることへのサポートを行いながら、確かなエビデンスを未来の子どもと家族にプレゼントしたい。